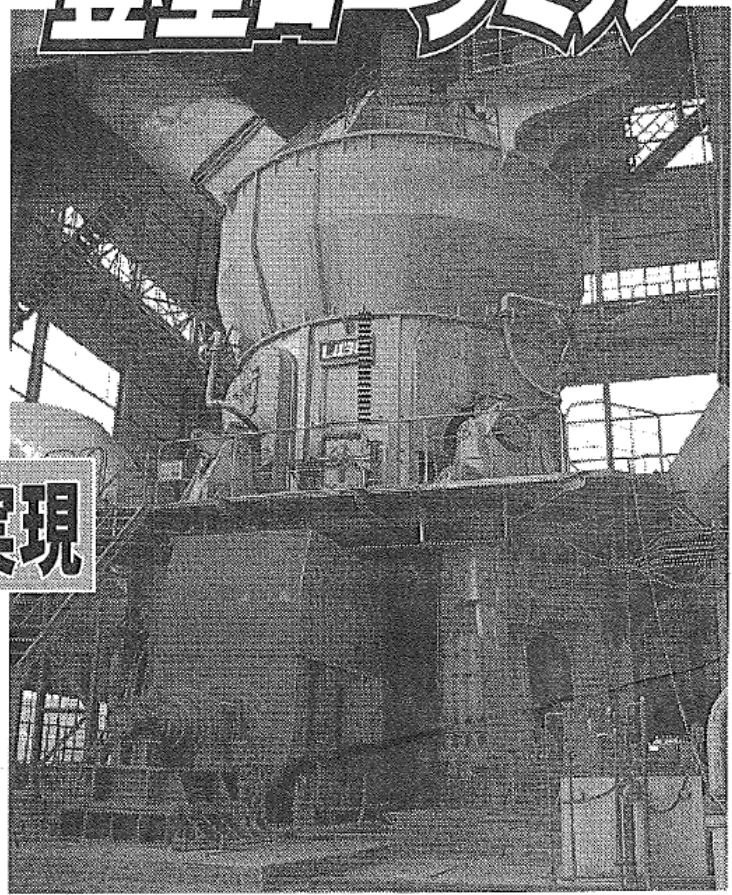


堅型ローラミル



宇部興産機械

セメント産業におけるCO₂削減対策、資源リサイクルの活用ニーズに応え、宇部興産機械は高効率の堅型ミルの改良、開発を実施してきた。この結果、トータル納入台数も累計で509台となっている。更に昨今の中国国内での高炉の新設に伴い、ここ2年間で15台ものスラグミルを受注済みである。今後も宇部堅型ミルの開発方針が一層注目されることだ。

特に注目されるのがスラグ粉砕の技術革新である。当社は国内外で初めて堅型ミルによるスラグ粉砕に成功し、1985年に初号機としてUM32Sを納入したスラグ粉砕

スラグ粉砕分野で更なる高効率化を実現

動肉盛溶接機により短時間で再肉盛補修が可能であることから、大幅なメンテナンスコストの低減が図られる③ハイプレーション化に対応可能な「UNKS型セパレータ(当社開発)」を新規開発し、6000cm³までの微粉砕製品もセパレータ回転数を変更するだけで容易に生産する事ができる。

さらに最も大きな特徴として、「2WAYシステム(当社開発)(*1)」を具備しており、高微粉砕において粉砕テール上の原料を適正かつ安定的な層厚に確保でき、効率の良い低振動、低消費動力の運転が可能である。高炉スラグセメントの主原料であるセメントの生産においても1台の宇部堅型ミルでスラグ粉砕とクリンカ粉砕を兼用する事が可能であり、設備の合理化も実現できる。

宇部堅型ミルは、セメント産業での多大な実績と豊富な経験により革新された高効率の堅型ミルであり、完成された技術である。今後の顧客の高度且つ多様化されるニーズに応えるべく、さらなる技術革新を継続する。

(*1) 2WAYシステムとは、粉砕ローラの前方に粉砕原料を圧密脱気する事を目的とする補助ローラを具備し、この補助ローラの加圧力を任意に調整する事により、最適な運転状態を実現する。宇部興産機械にて独自に開発した技術である。